

平成 20 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社ヴィア・ホールディングス  
 代表者名 代表取締役社長 横川 紀夫  
 (登録銘柄 コード番号 7918)

問い合わせ先

役職・氏名 執行役員 今井 将和  
 電話番号 03-5155-6801

連結業績予想(第 2 四半期連結累計期間および通期)の修正ならびに

個別業績予想(第 2 四半期連結累計期間)の前年同期実績との差異に関するお知らせ

最近の業績の進捗状況を踏まえ、業績予想の見直しを行った結果、平成 20 年 5 月 23 日付当社「平成 20 年 3 月期 決算短信」にて発表いたしました平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)および平成 21 年 3 月期通期(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。また、個別業績についても、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	24,000	700	600	70	2 円 89 銭
今回予想 (B)	22,877	586	547	306	12 円 63 銭
増減額 (B - A)	△1,123	△114	△53	236	9 円 74 銭
増減率 (%)	△4.6	△16.2	△8.8	337.1	—
(ご参考)前期実績 平成 20 年 3 月期中間	16,305	149	5	△706	△28 円 93 銭
(ご参考)前年対比(%)	140.3	393.2	10,940	—	—

(2) 平成 21 年 3 月期通期の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	49,300	1,900	1,600	300	12 円 37 銭
今回予想 (B)	44,000	1,400	1,300	500	20 円 61 銭
増減額 (B - A)	△5,300	△500	△300	200	8 円 24 銭
増減率 (%)	△10.7	△26.3	△18.7	66.6	66.6
(ご参考)前期実績 平成 20 年 3 月期中間	35,606	411	269	△1,465	△60 円 41 銭
(ご参考)前年対比(%)	123.5	340.6	483.2	—	—

### 1. 修正の理由（第2四半期連結累計期間）

#### (1) 第2四半期連結累計期間

当第2四半期連結累計期間につきましては、米国サブプライムローン問題に端を発した金融システム不安から金融情勢の急速な悪化が進み、实体经济への波及が広がりつつあるなか、原油価格や原材料価格の高騰などにより、企業収益や個人消費へも大きな影響がでてまいりました。

このような状況下において、印刷流通事業については、出版業界をはじめ主要顧客を取り巻く経営環境がより一層厳しさを増しております。こうしたなか、当社子会社である㈱暁印刷は「再生と再編」の一環として当社子会社の㈱日本システムおよび㈱ワールドプランニングとの吸収合併を実施し、シナジー効果を追求してまいりましたが、売上高については取引高の減少にともない当初の計画を下回る見込みとなりました。加えて、昨今の未曾有の金融不況ともいえる状況下において、取引先の債権回収に関してはより保守的に見積もることとし、貸倒引当金繰入額等として146百万円を費用計上いたしました。

一方で、当社グループの中核事業である外食サービス事業については、昨今の投融资環境を踏まえ既存業態の新規出店を抑制した結果、売上高は当初の計画を下回る見込となりました。しかしながら、「既存業態の強化」と「新規取得事業のバリューアップ」を基軸とする施策を確実に実施したことで、店舗運営コストの効率化およびグループメリットによる調達原価の低減化等が奏功し、既存店の収益体質が良化いたしました。その結果、外食サービス事業の営業利益および経常利益は、ともに計画に対して堅調に推移してまいりました。

また、当期純利益につきましては、上記のとおり外食サービス事業が堅調に推移したこともあり、繰延税金資産の取崩額が当初予想（300百万円の取崩予定が70百万円程度の取崩となる見込み）を大きく下回り、前回の予想を上回る見込みとなりました。

以上の理由から、売上高は22,877百万円（前回予想比△1,123百万円）、営業利益は586百万円（同△114百万円）、経常利益は547百万円（同△53百万円）、当期純利益は306百万円（同+236百万円）となる見込みです。

#### (2) 通期

当通期につきましては、現状の経済情勢の不透明感が拡大し、实体经济へ与える影響はさらに厳しくなることが予想されます。こうした環境認識を踏まえ、外食サービス事業におきましては、上期に引き続き既存業態の新規出店は慎重に判断し、高収益が見込める物件を選別したうえで実施してまいりますが、出店数は当初の計画を下回るため、新規出店にて見込んでおりました売上高および利益については当初計画を下回る見込みです。一方で、収益の大半を占める既存店については、収益体質のより一層の強化をすすめることで最大の商勢期である年末を万全の態勢で迎え、通期の売上および利益ともに計画どおりの業績を確保してまいります。

また、印刷流通事業におきましては取引高の減少から売上は当初の計画を下回る状況で推移することが見込まれるとともに、金融不況にともなう混乱がしばらく続くことを前提として、取引先の債権に対して貸倒引当金繰入額の積み増しを見込むことといたします。

以上の状況を踏まえ、当通期の連結売上高は44,000百万円（前回予想比△5,300百万円）、営業利益は1,400百万円（同△500百万円）、経常利益は1,300百万円（同△300百万円）、当期純利益は500百万円（同+200百万円）となる見込みです。

### 3. 平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想の差異

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前年同期実績（A）	447	80	11	△48
当期予想（B）	452	32	35	154
増減額（B－A）	5	△48	24	202
増減率（％）	1.1	△60.0	218.1	—

#### 4. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想の前年同期実績との変動理由

当社は、純粹持株会社であることから売上高につきましては、主に経営指導料収入、配当金収入等により構成されております。

売上高については、前年同期と比べほぼ横ばいで推移する見込みです。営業利益は無形固定資産の償却および一般費等の販管費の増加により減少し、経常利益については協賛金等の営業外利益が増加したことにより増加する見込みです。

当期純利益については前記の要因に加え、税引前当期利益の増加と連結納税制度による法人税等の戻入額の増加等により、前年同期と比べ増加する見込みです。

\* 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以 上